

第二回「四国山地 緑の回廊」あり方 検討委員会を開催

〈指導普及課〉

四国森林管理局では、設定から五年を経過した「四国山地緑の回廊」の維持・整備、管理及びモニタリング等の今後のあり方について検討を行う第二回目の検討委員会を、一月二三日・二十四日の両日開催しました。

第二回の検討委員会では、一日目に、剣山地区（高知中部森林管理署管内・三嶺さおりが原）のニホンシカによる立木や希少植物の食害の状況と、防護柵内の植生の回復状況などの現地視察を実施しました。

二日目は、一回目の検討委員会で出された意見等に対する考



意見交換会の様子

え方と、今後の当該緑の回廊のあり方の方向について意見交換を行いました。

各委員からは、「今なぜ、連続性を確保しなければならぬのか」「環境省、関係県及び市町村等と森林管理局とで役割分担を明確にし、実行に結びつける必要がある。」「モニタリングにおいては、動植物の生息・生育状況がしっかりと把握できるように調査を行うとともに、外来種のソウシチヨウ（鳥）等の把握にも留意が必要である。」「一般の国民に、緑の回廊の存在自体が知られていないことから、PRをしつかり行う必要がある。」など、多くの意見が出されました。

検討委員会は今回で終了しましたが、今後は、当委員会が出された意見を整理・取りまとめたうえで公表するとともに、平成二十一年度以降の四国山地緑の回廊設定委員会に反映することとしています。

親子で「壁掛けづくり

高知市立介良小学校での
森林・木工教室

〈指導普及課〉

一月十八日、高知市立介良小学校において、森林・木工教室を実施しました。



壁掛けづくりの様子

これは、介良小学校から、親子が参加するイベント「ふれあい参加日・介良の祭り」の体験学習コーナーの一つとして、木工製作の体験活動を通して森林への理解を深めさせたいと、当局に森林・木工教室の依頼があったものです。

当日は、森林・木工教室を含め、二十三の体験学習コーナーが設けられ、森林・木工教室には十八組の親子等が参加しました。

はじめに、「木や森林・林業、国有林について」と題して、森林教室を実施しました。森林教室では、高知県がどれ位森林で覆われているか（森林割合）というクイズを出したところ、ほとんどの子どもが、日本で最も低い割合の三二％と答え、高知県が日本一であることに驚いていました。

壁掛けづくりでは、自然の木の実や枝をどのように細工するかについて、親子で話し合いながら、細かい作業に取り組みしていました。中には、早くできた親子もいましたが、のこぎりやナイフの使い方が不慣れな親子もいて、時間ぎりぎりまで奮闘し、有意義な親子のふれあいになったのではないかと考えています。



受賞した兩名（左：田ノ上業務係長 右：佐竹係員）

受賞おめでとう！

国有林野事業業務研究

発表会で優秀賞に輝く

昨年の十一月二十七日、林野庁において、平成二十年度国有林野事業業務研究発表会が開催されました。

今回の発表会には、当局から、次の四課題を発表し、そのうち森林技術部門で、森林技術センター長沢詰所佐竹係員、田ノ上業務係長が林野庁長官賞優秀賞を受賞しました。

受賞した佐竹係員、田ノ上業務係長からは、「さらに森林・林業に対する多様なニーズに応えていくための技術開発に取り組

んで行きたい」とのコメントがありました。発表者の皆さんご苦勞様でした。

発表課題等は、次のとおり
森林技術部門

○平谷地すべり地内のダム構造開発および改良とその成果について（徳島署祖谷川第二治山事業所中脇主任）

○保育作業の省力化についての検討（下刈り・除伐の省力化）（森林技術センター長沢詰所佐竹係員、田ノ上業務係長）

森林ふれあい部門
○三嶺地域におけるシカ被害防止対策について（高知中部署馬門業務課長、新井岡の内森林事務所森林官）

○大道マツ再生の取組みについて（四万十川森林環境保全ふれあいセンター隅田自然再生指導官）

森林管理局の業務紹介 計画課業務について

計画課の主な業務には、①「国有林の地域別の森林計画」や

「地域管理経営計画」などの策定・変更作業を行う計画策定等業務、②保護林拡充等の検討や森林資源のモニタリング調査などを行う自然保護等業務、③財産管理の基本である境界管理や被害境界標の改設などを行う測定業務、④流域管理推進アクションプログラムの実施や民有林などの森林整備に関する協定締結などを行う流域管理システムに関係する業務などがあり、現在、これらの業務を十一名の職員で行っています。

【本年度の取組等】

本年度の計画策定等業務については、「那賀・海部川」、「中予山岳」及び「嶺北仁淀森林計画区」の三計画区に係る地域管理経営計画等の策定作業と「香川森林計画区」外六森林計画区の計画変更作業が大詰めを迎えており、現在、一般の方々に計画書の案に対する意見を伺うための公告・縦覧を行っているところ。今後は県市町村等の意見聴取や有識者の意見を伺う検討会開催等を行い、三月の地域

管理経営計画等の公表に向けて作業を進めています。

自然保護等業務では、現在、緑の回廊の核となる保護林の候補地の検討や生態系ネットワーク形成のための委託調査等を行っているところ。測定業務では、本年度が境界

検測予備調査（平成十三〜二十年（年度）の最終年度に当たることから、二巡目となる来年度以降の予備調査の計画作成を進めています。

流域管理システム関連業務については、これまで締結していた徳島、香川、愛媛県に続き、昨年十一月に高知県と当局との間で「こうちの森づくりに関する覚書」を締結したことから、今後、森林施業の共同団地化や県民参画による森林整備など国有林と民有林が連携・協力した具体的な取組をより一層進めることとしていく所です。

また、平成二十年一月から京都議定書で定められた第一約束期間（平成二十〜二十四年）に入ったことから、間伐等の森林整備を行いながら森林吸収目標を達成するための進行管理を確実に実施することとしています。

計画課は、これらの業務を通じて、今後も「美しい森林づくり」の推進に向けた取組を行ってまいります。

各地の たより



新入生への贈り物

間伐材が机に変身

（ふれあいセンター）

昨年の十二月十日、四万十町立昭和中学校全校生徒三十二名が、地元の下道引地続山国有林で間伐を体験することになり、四万十森林管理署職員とともに指導にあたりました。

生徒たちは、職員から安全作業の心構えを聞き六班に分



新1年生のために間伐体験

かれて、選木、伐倒方向を確認した後、受け口、追い口の順にノコギリを入れていきました。

始めはノコギリがうまく使えず苦労していましたが、次第に慣れて上手に使っていました。

伐った間伐材は、四万十中央森林組合の職員に造材を担当してもらい、その後、林道まで運び、生徒全員でトラックに積み込みました。この材は、在校生の手によって新一年生の机に生まれ変わります。

生徒たちは、間伐を体験することによって地域の基幹産業である林業の大切さや間伐と木材利用の重要性など、森林・林業に対する理解が深まったようです。

上手に作れたよ！

（徳島署）

一月六日、小松島市立目佐児童館において児童二十二名を対象に森林教室と木工教室を開催しました。

最初に、世界の森林状況を表した世界地図や徳島県の航空写真・日本の森林割合が分



上手に作っています

かるグラフなどを使い分かり易く説明をした後、「その森林を守らないとどうなるのかな？」との観点から高知県森と緑の会製作の紙芝居「森」を上映しました。

続いて、除伐木などを利用して作る昆虫（カブト虫）と動物（クマ・イヌ）を製作しました。

参加した児童は低学年でしたが、紙芝居と動物作りの時間には真剣なまなざしで取り組みました。

最後に、児童代表から感謝状と「また、来てください。」と要請を受け、無事に終了しました。

クリスマスリース教室

〔徳島署〕

昨年の十二月七日、徳島森林管理署において、学校や児童館の教職員を対象としたクリスマスリース教室を開催しました。

例年は、一般公募で参加者を募っていましたが、今回は広く普及させる事を目的に、学校関係者や児童館職員に参加者を絞って募集しました。

当日の参加者は県内の高等学校から三名の先生と児童館職員四名を当署職員が手取り足取り、約二時間でモミやカスラなど自然素材をふんだんに使った手作りリースを完成させました。

参加した先生方からは「参加できて良かった。今後、授業等に取り入れたいので協力して頂



手作りのリースが完成

きたい」との言葉も頂き、大変有意義な一日となりました。

クリスマスリースづくり体験

〔高知中部署〕

昨年の十二月七日、県立香北青少年の家において、南国市及び香美市在住の小学二年生から六年生までの十名とその保護者等四名を対象にクリスマスリース作成教室を開催しました。

今回は、あらかじめ編んでおいた葛に、スギ、ヒノキ、モミのうちから好みの葉を差し込み、輪を形作っていきました。これにマツボックリやサルトリイバラの実を飾り付け、完成。手早い子どもたちは、二つ目の作品も完成させ、「家族におみやげが



出来上がった作品を手に記念撮影

できた。」と喜んでいました。また、保護者からは、「短時間で、すばらしい作品が出来るんですね。」との声も聞かれました。それぞれの作品を手に記念撮影をし、笑顔で教室を終えました。

ミニ門松づくり体験

〔高知中部署〕

昨年の十二月二十一日、県立香北青少年の家において、南国市・香美市及び香南市在住の小学二年生から六年生までの十一名とその保護者等五名を対象にミニ門松製作教室を開催しました。

最初に竹の成長や開花など竹の不思議について話し、子どもたちに竹という植物に興味を持ってもらってから門松づくりに取りかかりました。

まず、竹三本を一〇cm程度の長さに切り、ヤスリをかけました。次にサクラやミズメの枝を五cmに切り、竹のまわりに並べ、麻紐で固定させました。最後にゴヨウマツ、ナンテン、ササなどを飾って完成。

子どもたちは、すべりやすい竹を斜めに切るのに苦戦していました。また、保護者等は大きな門松作りにも挑戦し、「想像していたよりも立派な物が出来た。」と喜んでいました。



門松づくりの様子

竹や木の枝を切るのに、思ったより時間がかかりましたが、一時間半ほどで完成させることができ、全員、自分の作品に満足していました。

つるかご編み教室

〔香川所〕

昨年の十一月十七日、古高松南コミュニティセンターの主催で「つるかご編み」の講座を行いました。

当日は、屋島国有林に隣接した香川県立屋島青少年の家に、約三十人が集まり、まず、森林ふれあい担当主幹から屋島国有林や森林、保安林等について説明した後、つるかごの材料とな



好評だったつるかご編

るつるの採集に国有林内に入りました。

参加者は、慣れない森林内で、自分の作りたいかごをイメージして色々なつるを採取するため、高いところのつるを採ろうとしたり、太いつるを何とか切ろうと悪戦苦闘の連続でした。

その後、青少年の家に戻って、思い思いのつるかご作りに取りかかり、太いつるを曲げるためにまた苦戦したりしながらそれぞれが個性豊かなつるかごを作り上げました。

参加者は、出来上がったつるかごを見せ合ったり、お互いのかごを品評したりしながらも、「自分が採ったつるで作ったのがとても楽しかった」「また次も参加したい」と好評で、コミュニティセンターからは、また来年度も実施したいとの申し入れがありました。



森林教室の様子

例年、十、十一月は、小中学校から森林環境教育の支援要請が集中します。中でも、黒尊川源流域の森林である八面山は人気スポット。今年も、四万十市の具同小学校・下田小学校・西土佐中学校・大月町の弘見小学校の四校、計百五十二名を対象に実施しました。

愛媛県側の登山口を出発し、歩道沿いの樹木やニホンジカの食害などについて説明しながら、八面山頂上(一、一六五m)を目指しました。頂上での眺望は素晴らしく、南予アルプスの山々が一望でき、登山の疲れも忘れて驚きの声が聞かれました。

フィールドはブナ林 —八面山で森林環境教育— (ふれあいセンター)

その後、近くのブナ林へ移動して、職員が、森林の持つ様々な働きを説明する、文字通り「森林教室」を実施しました。

学習の後のお楽しみは、ブナの大木にロープを架けた特製のブランコ。迫力満点のブランコに初めは怖怖の様子でしたが、徐々に歓声が上がリ、順番待ちの列ができるほどの盛況となりました。

子どもたちにとっては、実際に木や土に触れたり落ち葉を踏みしめる体感を通して、自然に親しむとともに、改めて水と土を育む森林の大切さが理解できた様子でした。

ウォークイン屋島 (香川所)

高松市立屋島小学校では、郷土の歴史や風土について学ぶため、毎年、全校生徒が学校周辺の様々な場所に出かける課外授業「ウォークイン屋島」を実施しています。

今年度は昨年の十一月六日に行われ、約七十名の生徒と保護者が、屋島の自然について学ぶため、国有林を訪れました。当日は、紅葉にはやや早いものの、色づき始めた屋島寺の



木の葉や実をスケッチする児童

遍路道を、職員の説明を聞きながら樹木の名前を調べたり、葉や実をスケッチしたりしながら中腹にある弘法大師ゆかりの地「喰わずの梨」まで登りました。

登る途中、森林ふれあい担当主幹から森林の土壌が、落ち葉や腐葉土などからできており、学校のグラウンドの土との違いや、保水や国土の保全に役立っていることについて教わり、「喰わずの梨」では高松森林官から「森林の働き」について教わり、児童たちは熱心に聞き入っていました。

帰りは落ちていたどんぐりやマツボックリなどを集めながら下山し、郷土の森や森林について楽しく学べた一日になりました。

「ふれあいの森」で 間伐作業等を体験 (高知中部署)

昨年の十一月「物部川二十一世紀森と水の会」が、当署と協定を結んでいるふれあいの森二カ所で、間伐作業等を体験しました。

まず、十一月十五日は、「物部川源流ふれあいの森」で保育間伐を行いました。現地は、四十年生のヒノキ人工林で、足場が悪い中、上下作業や接近作業にならないように気をつけて間伐を進めました。また、ツルがらみが多かったため、木を伐つてもなかなか倒れず、かかり木処理に用いるフェリングレバーやロープを駆使して無事伐倒作業を終了しました。苦勞の多い現場でしたが、参加者たちからは、「間伐木の倒れる音がいいね。」「ストレス解消になった。」「また参加したいです。」等の感想が聞かれました。



間伐作業



植付等の作業に参加した皆さん

また、十一月三十日には、「別府・物部川ふれあいの森」でミズナラとケヤキの苗木二百三十本の植付と、クスギのどんぐり五百個を埋めました。当日は好天に恵まれたものの、日当たりの悪い箇所では寒さに堪えながらの作業となりましたが、ベテランの多い参加者たちは、一本一本丁寧に植栽していました。

現地には、事前にニホンジカの食害防止ネットも設置しており、厳しい冬の寒さを乗り越えて、木々が成長していくのを期待しながら作業を終えました。